

前回、保育園や小学校で「落ち着きがない」「じっと座ってられない」と指導された子供が発達障害と診断されて次々と向精神薬を投与されている恐るべき実態を明らかにした。脳が未発達の子供・児童に向精神薬を投与すると、脳が変質する恐れがある。それなのに、なぜ、現場の教師は子供を医療につなげようとするのか。衝撃のリポート第2弾。

が 伊藤隼也と本誌取材班 されている!

子供たち 薬漬けにさ

短期集中連載



親も教師もありがたがる 「発達障害」病気の烙印

(第2回)

まず指摘すべきは教師が「洗脳」されていることだ。関西地方にある特別支援学校の男性教師が証言する。「2年前、特別支援教育に関心のある教師が参加する講習会で注意欠陥多動性障害(A.D.H.D.)について学びました。そこで流されたVTRには、A.D.H.D.の子供がリタリンという薬をのんでおとなしくなるシーンがあった。上映後、講義を担当していたある大学教授は、「VTRではリタリンでしたが最近ではコンサータですね」と解説していました。リタリンは依存性が強く、自殺衝動や他害衝動があるため、現在はA.D.H.D.治療には使わない。かわって登場したコンサータも、成分はリタリンと同じだ。問題はそれらのA.D.H.D.治療薬が健全な育成には役立たず、むしろ害であることだ。

リタリンを服用中の子どもは「自己満足感が低く精神的に不安定である」との自己評価を下した。友だちづくりや友人関係の維持に関しては、刺戟薬に「有意な効果はほとんどなく、悪影響が高い割合で見られた」。さらにオハイオ州立大学の心理学者ハーバート・リー氏の研究を紹介している。「彼は、リタリンは生徒の「言葉、読解、スペリング、算数」に何の効果ももたらさず、問題解決能力を損なうと報告した」。

だが、日本の教育現場にはそれらの情報はほとんど伝わっていない。前述の講義に参加した教師はこう証言する。「講義に参加した約200人の教師は熱心にメモを取っていました。他の講義でも、大学教授が「A.D.H.D.にはコンサータをのませておけば大丈夫」と勧めていました。それらの講義により「A.D.H.D.の治療・コンサータの処方」と刷り込まれるんです。スキルアップのため参加する熱心な教師ほど講義の影響を受け、医療機関との連携に

前のめりになるという。関西地方在住の小学校ベテラン養護教師の証言。「特別支援教育に熱心な教師ほど医療とのつながりが強く、発達障害が疑われる子供を精神科医に診てもらおうよう主張します。他の教師たちは知識がないので、そうした先生の発言力は強い。一般の教師は従わざるを得ません」。洗脳は親にも及んでいる。林試の森クリニック(東京都目黒区)の石川豊彦院長が指摘する。「最近の親は子供に心配事があるとネットで情報を集め、それをもとに学校に相談したり、実際に受診して子供への投薬治療を望んだりします。ネットには親を巧みに誘導する罠がある。例えば、ネットで「A.D.H.D.と検索すると上位でヒットするサイトには「ADHD.co.jp」や「ADHDナビ」などがあり、それらはともに製薬会社が運営するサイトだ(前者が日本イーライリリー、後者がヤンセンファーマ)。試しに「ADHD.co.jp」を開いて「ADHDの治療方法(小児・思春期)」という項目に進むと、「教育

13年5月に日本政府が示した見解(※1)では、「発達障害の原因は未解明」とし、A.D.H.D.の治療としてコンサータ錠を投与することについて「A.D.H.D.の原因が未解明であるため、現時点で効能又は効果が生ずる機序を説明することは困難である」としている。

だが、「ADHD.co.jp」では、「ノルアドレナリンやドパミンの不足を改善する働きがあります」と断定している。その科学的根拠について、日本イーライリリーに聞いた。するとファクスのにて回答があり、「科学的エビデンスのひとつとして、一般に公開されております論文の一部を(紹介いたします)」とのメッセージとともに論文名(※2)を示した。

発達障害を「勉強」したママ友から、「あなたのお子さんは発達障害」という病気の噂が流れた。医師に診てもらったほうがいい」と言われて受診するケースもある。他の保護者からの教師へのプレッシャーも相当に強い。「多様な個性に正面から向き合い、時間をかけて子供たち一人一人の特性を成長させよう」と努力する教師がいても、「あの子がいるから授業が妨害されてクラスの学力が上がらない」などの保護者からの圧力がかかることがある。そうした批判をかかすために、管理職がその子供を支援学級に追いやりたり、精神科を受診するよう勧めたりすることがあるのです(石川院長)。

「発達障害は「何らかの脳の機能不全」が原因とされている。その点で、発達障害の子供は「おとなしい子供」は教師にとって「都合がいい」(アトモキセチン)だ。

だが、それはラット実験の論文だった。仮に、人間の脳は、「ノルアドレナリンやドパミンの不足を改善する働きがあります」と断定している。その科学的根拠について、日本イーライリリーに聞いた。するとファクスのにて回答があり、「科学的エビデンスのひとつとして、一般に公開されております論文の一部を(紹介いたします)」とのメッセージとともに論文名(※2)を示した。

「おとなしい子供」は教師にとって「都合がいい」(アトモキセチン)だ。だが、それはラット実験の論文だった。仮に、人間の脳は、「ノルアドレナリンやドパミンの不足を改善する働きがあります」と断定している。その科学的根拠について、日本イーライリリーに聞いた。するとファクスのにて回答があり、「科学的エビデンスのひとつとして、一般に公開されております論文の一部を(紹介いたします)」とのメッセージとともに論文名(※2)を示した。

「発達障害は「何らかの脳の機能不全」が原因とされている。その点で、発達障害の子供は「おとなしい子供」は教師にとって「都合がいい」(アトモキセチン)だ。

「発達障害は「何らかの脳の機能不全」が原因とされている。その点で、発達障害の子供は「おとなしい子供」は教師にとって「都合がいい」(アトモキセチン)だ。



製薬会社が運営するADHDに関するホームページ。

※1 「発達障害児の脳内神経伝達物質のレベルを正常化する薬物に対する効果」
 ※2 Atomoxetine increases extracellular levels of norepinephrine and dopamine in prefrontal cortex of rat: a potential mechanism for efficacy in attention deficit/hyperactivity disorder. Bymaster FP, Kattner JS, Nelson DL, Hemrick-Luecke SK, Threlkeld PG, Heiligenstein JL, Morin SM, Gehlert DR, Perry KW. Neuropsychopharmacology. 2002 Nov;27(5):690-711.